

朝鮮國の地雉子にて、我朝の地雉子に同じ、胸より腹迄赤紫にて、首白輪有り、飼方何れ地雉子同様、地雉子懸合の高麗諸國より流布して紛敷有り、白輪大キク赤實宜敷を上する。肥前の國平戸の内放島へ放シ飼の高麗ふへ、此鳥宜敷乍去國の掻きびしく、取出シ他國へ出ス事を近年禁す、同國博多町の鳥や長崎より尾長雉子とて唐人持渡、長崎より江戸へ相廻ル、尾羽ながく三尺餘りにて、鳥のようす則山鳥の大方便り、其國其所にて同じ鳥にも、鳥のようすにて餘多有るものゆへに、一方に思ふべからず、勿論雉子と鷄は年越雌かんと成、高麗も右同様、飼方米にては惡し、糲そば諸干麥黍を右の品にて飼べしよろし。

〔古事記上〕故爾天照大御神高御產巢日神亦問諸神等、天若日子久不復奏、又遣曷神以問天若日子之淹留所由、於是諸神及思金神答白可遣、雜名鳴女時詔之、汝行問天若日子狀者、汝所以使葦原中國者、言趣和其國之荒振神等之者也、何至于八年不復奏、故爾鳴女自天降到居天若日子之門湯津楓上而言委曲如天神之詔命爾天佐具賣此三字以音聞此鳥言而語天若日子言此鳥者其鳴音甚惡故可射殺云進、即天若日子持天神所賜天之波士弓、天之加久矢射殺其雉、爾其矢自雉胸通而逆射上、逮坐天安河之河原天照大御神高木神之御所、是高木神者高御產巢日神之別名、故高木神取其矢見者血著其矢羽、於是高木神告之、此矢者所賜天若日子之矢、即示諸神等詔者、或天若日子不誤命爲射惡神之矢之至者、不中天若日子、或有邪心者、天若日子於此矢麻賀禮此三字以音云而取其矢、自其矢穴衝返下者、中天若日子寢胡床之高胸坂以死、亦其雉不還故於今諺曰雉之頓使本是也、故天若日子之妻下照比賣之哭聲與風響到天、於是在天天若日子之父天津國玉神及其妻子聞而降來哭悲、乃於其處作喪屋而阿鷹爲岐佐理持字以音下三鷺爲掃持翠鳥爲御食人雀爲碓女雉爲哭女如此行定而日八日夜八夜以遊也。

〔古事記傳十三〕名鳴女には二つの考あり、一つには先伎藝志と云名は、其鳴聲を以負たる物なれば、